

八王子市教育委員会 殿

学校名 八王子市立恩方中学校

校長名 植田 恭正 公印

令和8年度教育課程について(届)

このことについて、八王子市立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標 主体的に生き、豊かで逞しい人間の育成をめざして

- ・ 自ら考え、学ぶ人 (自学) 【重点】
- ・ 理解しあい、協力する人 (共生)
- ・ 健康で心の豊かな人 (健全)

令和8年度重点目標

『地域が誇る学校・生徒が通いたい学校・保護者が通わせたい学校』をつくるために、学習指導要領前文に示された「持続可能な社会の創り手の育成」を教育活動の中核に据え、学校に関わるすべての人がウェルビーイングを実感できる学校づくりを推進する。

- 教科等横断的な視点に立ったカリキュラム・マネジメントを推進し、学習内容の充実と確実な定着、資質・能力の育成を図る。
- 【恩方中学校グループ(恩方第一小・恩方第二小・元木小)】との連携を一層深化させ、義務教育9年間を見通した切れ目のない指導を充実させる。
- 誰一人取り残さず見守り、育成するための指導体制を整備し、不登校や多様な教育的ニーズへの対応を充実させる。
- 地域と協働した教育活動を通して、郷土を愛し、社会と主体的に関わろうとする態度を育成する。
- 体罰やいじめを根絶し、人権尊重・生命尊重を基盤とした指導の充実を図る。

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

- ・ 働き方改革の視点を踏まえた組織的対応により、生徒一人ひとりの発達や成長、学習状況を的確に把握し、個に応じた指導と協働的な学びを両輪として充実させる。
 - ・ 基礎的・基本的内容の確実な習得を基盤とし、小学校及び学校運営協議会と連携して確かな学力を育成する。
 - ・ 自他を大切にすることを育み、健康な心身を育成することにより、生徒が社会の中で自立して生き抜く力を育てる。
 - ・ 地域運営学校として、地域と共に目標やビジョンを共有し、関係機関との連携を強化することで、地域から信頼される学校づくりを推進する。
- ア 学習環境や支援体制を整備し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
 - イ 地域と連携した教育活動や総合的な学習の時間、特別活動を通して、豊かな心を育成する。
 - ウ 健康で安全な生活を実現するための教育を推進し、生涯にわたって主体的に健康づくりに取り組む態度を養う。
 - エ 不登校生徒への支援については、個票システムを活用した早期把握と、不登校対応巡回教員を軸とした組織的支援により、教育機会の確保を図る。
 - オ いじめ防止対策を計画的・組織的に実行し、早期発見・早期対応・早期解決を図る。
 - カ 特別支援教育の充実を図り、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を行う。
 - キ 【恩方中学校グループ(恩方第一小・恩方第二小・元木小)】におけるグループの共通目標は、「よく考え、学ぶ児童・生徒」「心身ともに健康でたくましい児童・生徒」「自らの進路を切り拓く児童・生徒」である。恩方中学校グループ共通の児童・生徒像を共有し、学習面や生活面の系統性・継続性を重視した小中一貫教育を推進する。

2 指導の重点

(1) 各教科等

ア 各教科

- ① 1人1台の学習用端末を学年や発達段階に応じて効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを充実させるとともに、生徒の学びに向かう力の向上を図る。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「読み・書き・話す」といった基礎的な言語環境の整備と言語活動の充実を図る。
- ③ 各種学力調査の結果を分析し、指導方法の工夫・改善ならびにICT指導力向上を図るとともに、生徒が自らの学習状況や成果を振り返り、学びを将来の進路選択や自己の生き方と関連付けて考えることができるよう、キャリア教育の視点を踏まえた授業改善を行う。
- ④ 少人数指導等を通して、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るとともに、学習の達成感を積み重ねることで、自己肯定感を高め、将来に向けて主体的に学び続けようとする態度を育成する。
- ⑤ 保健体育科においては、体力・運動能力調査の結果を踏まえ、体力向上を図る取組を継続的に実施する。

イ 総合的な学習の時間

- ① 総合的な学習の時間の全体計画に基づき、探究的な学習を通して、生徒が主体的・協働的に課題を設定し、情報を収集・整理・分析し、まとめ・発信する一連の学習過程を重視することにより自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。
- ② キャリア教育の視点に基づき、各教科及び特別活動との関連を図りながら、1年福祉体験、2年職場体験、3年進路選択を柱とした学習を展開し、生徒が社会や職業との関わりを自分事として捉え、自身の将来について主体的に考える力を育成する。
- ③ 八王子市内の身近な郷土や日本遺産、恩方地域の歴史や文化、自然等を題材とした学習や、獣害対策を通じて里山のあり方や共生社会の実現への課題や地産地消を通じたSTEAM教育等の学習を実施する。
- ④ オンライン交流等を活用した北海道苫小牧市立勇払中学校との姉妹校交流を通して、八王子市の姉妹都市交流を担う責任感と地域社会の一員としての自覚を高め、将来、地域や社会に主体的に参画しようとする態度を育成する。

ウ 特別活動

- ① 生徒自身が自ら考え、判断し、行動に移す委員会活動や生徒会活動の充実を図り、学校や地域におけるボランティア活動等への参加を通して、自治的組織活動への理解を深める。
- ② 課題解決に向けた合意形成や意思決定に至るプロセスを重視し、多様な他者と協働しながら学校生活をよりよくしようとする態度を養う。
- ③ 集団宿泊行事等の体験的な活動を通して、人間関係をよりよく形成し、自己の将来に向けての生き方を考え、その実現に向けて日常生活の向上を図ろうとする態度を育成する。

(2) 特別の教科 道徳を要とする道徳教育

- ① 道徳教育全体計画及び別葉に基づき、特に、教育活動全体を通していじめを題材とした授業を各学期に位置付け、物事を多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての理解を深めるとともに「生命の尊さ」を重点項目として豊かな心を育成する。
- ② 「考え、議論する道徳」を重視した指導を行い、日常の学校生活や行事、体験活動と関連付けながら、道徳的判断力、心情、実践意欲及び態度を育成する。

(3) キャリア教育

- ① 義務教育9年間を見通した小中一貫教育の視点から、STEAM教育を柱とした取組を通して、地域資源（ゆず・ブルーベリー）を活用し、理科・社会科・総合的な学習の時間等を相互に関連付けた教科横断的な学習を計画的に編成する。また、探究的な学習の充実を図り、望ましい職業観・勤労観を育成し、生徒が社会の一員として自立して生き抜く力を養う。
- ② 恩方地域の歴史や文化、自然等を題材とした課題解決ならびに探求活動として、獣害対策を通じて里山のあり方や共生社会の実現への課題や地産地消を通じたSTEAM教育等の学習を実施する。
- ③ はちおうじっ子キャリア・パスポートを活用し、生徒一人ひとりが自己の成長や変容を振り返り将来への展望をもつことができるよう、年間指導計画に位置付け、計画的・系統的にキャリア教育を推進する。

(4) 特別支援教育

- ① 週に1回特別支援教育校内委員会を開催し、支援を必要とする生徒について、関係諸機関と連携を図りながら「学校生活支援シート」及び「個別指導計画」を作成し、指導内容や支援方法の共通理解を図る。
- ② インクルーシブ教育の視点に立ち、通常の学級において特別支援教育の要素を取り入れた指導・支援を推進する。特別支援教育コーディネーター及び特別支援教室専門員を中心に、専門スタッフや関係機関と連携し、生徒一人ひとりの実態に応じた支援を行うとともに、迅速かつ適切な支援体制の構築を図る。
- ③ 学校サポーター等を計画的に配置し、生徒の特性や教育的ニーズに応じた指導体制を整えるとともに、副籍交流校との連携や学校だよりの交換等を通して、特別支援教育に関する理解と交流を深める。

(5) 生活指導

ア 生活指導

- ① 教師と生徒との共感的人間関係の構築を基盤とした学級づくりを推進し、構成的グループエンカウンター等の取組を通して、生徒が安心して生活できる学級・学校環境の充実を図る。また、生活のきまりについては、生徒の実態を踏まえ、必要に応じて見直しを行う。
- ② 生徒が自己の身を守るために必要な知識や行動を身に付けることができるよう、セーフティ教室等を計画的に実施する。特に自転車利用の実態を踏まえ、自転車安全点検や外部機関と連携した安全指導を行い、PTAや学校運営協議会と協働して交通安全意識の向上を図る。
- ③ 性犯罪やデートDV等の防止の視点を踏まえ、『いのちの安全教育』を各学年の教科等に位置付け、指導の手引きに基づき、生徒の発達段階に応じた指導を計画的に行う。これにより、自他の生命や身体を尊重するとともに、被害者にも加害者・傍観者にもならないための適切な判断力と行動力の育成を図る。

イ いじめ防止等の取組

- ① 週に1回以上開催する学校いじめ対策委員会において、学校生活と友人関係に関するアンケート、気になる生徒調査、相談できる大人調査等の結果を基に協議を行い、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に向けた組織的対応を行う。
- ② 学校いじめ対策委員会のメンバー以外の教員については、生徒と直接向き合う時間や二者面談、いじめ対応のための時間を確保し、全校体制での情報共有と対応の充実を図る。
- ③ 生徒が『相談できる大人がいない』と感じることのない学校体制の構築を目指し、SOSの出し方に関する教育を計画的に実施することで、自殺防止に向けた取組を推進する。あわせて、『八王子市いのちの大切さを共に考える日』に道徳授業地区公開講座を実施し、家庭や地域と連携して生命の尊さについて考える機会を設ける。

ウ 不登校生徒への支援等

- ① 個票システムを活用して生徒一人ひとりの状況や支援ニーズを把握し、不登校対応巡回教員を軸として、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携しながら、一人ひとりの状況に応じた支援を行う。
- ② 登校支援コーディネーターを中心とした校内委員会において指導の方向性を共有し、ICTの活用等も含めた多様な支援方法により、不登校の未然防止ならびに教育機会の確保と登校意欲の向上を図る。

(6) 学力保障の取組（はちおうじっ子ミニマム）

- ① 『はちおうじっ子ミニマム』を活用した、社会生活を営む上で最低限身に付けるべき基礎的・基本的な学習内容の確実な定着に向け、教師及び学校運営協議会ボランティアによる個別学習指導や補習教室を計画的に実施し、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。
- ② 1人1台の学習用端末を日常的に活用し、家庭学習やオンラインによる学習支援を推進することで、学びの継続性を保障する。

(7) 特色ある教育活動

ア 義務教育9年間を見通した小中一貫教育の取組

- （取組1）恩方中学校グループ（恩一小、恩二小、元木小、恩方中）の児童・生徒が合同で参加する「はちおうじっ子サミット」や交流活動を実施し、共通の教育課題について話し合い、成果を共有することで、小中の指導の系統性と連続性を高める。

（取組2）「学力定着プロジェクトチーム」を中心に、学習状況の分析や指導方法の検討、共通した取組の実施を行い、誰一人取り残さない学力保障に向けた指導の充実を図る。

（取組3）「はちおうじっ子キャリア・パスポート」等を活用し、児童・生徒の学習面・生活面に関する諸情報をグループ内で共有するとともに、定期的な協議を通して指導の共通理解を深める。

（取組4）日本遺産「桑都物語」に関連する「千人同心」教育を柱とした郷土学習を、学校運営協議会や保護者、地域と連携して実施し、「地域の子どもは地域で育てる」という意識を共有する取組を進める。

イ その他

- ① 情報リテラシー教育を含めたICT活用に関する資質・能力の育成について取り組む。
- ② 恩方地区市民大運動会や恩方地区総合防災訓練への学校としての参加を通して、児童・生徒の地域活動への主体的な参画を促すとともに、振り返り等により活動の様子を見取り・評価し、地域の一員としての意識を育成する。
- ③ 八王子市の部活動改革に基づき、再編後の部活動を安定的に運営し、持続可能で充実した活動の継続を図る。